

平成30年2月22日

産業厚生委員会

(所管事務調査分)

阿久根市議会

1. 日 時 平成30年2月22日(木) 11時15分開議
11時40分散会
2. 場 所 第2委員会室
3. 出席委員 仮屋園一徳委員長、白石純一副委員長、中面幸人委員、
濱崎國治委員、牟田学委員、岩崎健二委員、
山田勝委員、野畑直委員
4. 事務局職員 議事係主査 大漣昭裕
5. 会議に付した事件
所管事務調査
6. 議事の経過概要
別紙のとおり

議事の経過概要

仮屋園一徳委員長

ただいまから産業厚生委員会を開催いたします。

先ほど道の駅阿久根の出店業者との意見交換会を行いました。この件について委員の皆さんから御意見等ありましたらお願いします。

牟田学委員

出店業者の方のいろいろな意見を聞いてですね、ぜひ公社のほうとの意見交換会を設定してほしいと思います。

山田勝委員

私はもちろんそれも大事な話ですけどね、きょうの話を聞いてみてもう暇がないという気がしますよ。阿久根市側としてはですね、6月議会のころからは私はリフォームのための予算を出してくると思いますよ。だからその前に実態を把握してこの話をちゃんとしてですね、勝手に商工観光課と公社がですね、先に進まないようにしないと阿久根市の業者がやっぱり参加して阿久根市の業者が自分たちがやってるんだという意識を植えつけんことにはですね、私は道の駅は元気にならないと思います。

だから私は指定管理者の話を濱崎委員がされましたけどね、例えばあの方々が指定管理者制度をするんだしたら私たちにさせてくださいよというぐらいのエネルギーをつくらないかんと思いますよ、指定管理者制度をするんだしたら。阿久根の業者がですね、出資をしてそして組織をつくってやってほしいと、そういうことですね、ぜひ話を進めてください。

中面幸人委員

きょう聞いて自分たちもわからないことが、ほんときょうはよかったと思います。確かにですね、先ほどから話が出ていますように、出店者の皆さんでほかのところがあるようにそういう組織をつくってですね、自分たちが指定管理者になるというのが理想かなという気もしますけど、それを本当にきょう集まった人たちがですよ、そういう組織づくりができるのか、その辺あたりが一番大事かなと思うんですよね。議会としてもそういうほうがいいんじゃないかという考えを持っているわけだけど、果たしてあの人たちだけでそういう組織が作り上げられるのかなというのもあるので、その辺あたりもしていけないといかんのかなという気はしますよね。

仮屋園一徳委員長

ほかに。

濱崎國治委員

いずれにしてもですね、やっぱり納入業者は不平不満があるわけですから、そういうのを含めて自分たちのそういう組織づくりをしてですね、将来的には指定管理者になるかならんかは競争法でありますからわかりませんが、そういうところまで持っていく組織を確立する必要があるなというのをつくづく感じました。特に委託手数料ですね、不満があるようですのでそれは前からそういう話があって、ただそれには売り上げ増とかですね、お客さんをふやす必要がありますのでそういうのを含めればですね、やはり業者自体が自分たちの商品をどういうふうに販売していくのかですね、拡充・拡大

していくのかをですね考えれば、おのずから組織化していく以外ないんじゃないかなという気がします。

山田勝委員

中面委員の言われることにちょっと補足させていただきます。私は長島もあそこもよく知ってますよ。ただ理事・経営者はですね出店業者であっても、常務とか専務とかいいうところにはですね専門の人をどっかの何かというのを連れてきてですね、させてるんですよ。だからそういう組織づくりというのはそんなに難しいことではないと思いますよ。ただ出店者があるいは阿久根方々がみんなでうんどがすっどという気持ちが大事な話で。

牟田学委員

今の意見もあるんですが、私はな今の道の駅のスタッフの問題だと思うんですよ。だから本当やれば理事長が言わったように私の会社ではこうこうしますよという話が最後にありましたけれども、もうちょっとスタッフ次第ではな、ものはまだ売れると思いますよ。だからあそこの責任者がどういう考えを持っているのか、またスタッフ、そこあたりをな、やっぱり納入業者の意見をきょうは聞いた。殿様気分じゃつとかいろいろ意見がありましたよ。だから本当でスタッフが頑張ればまだまだ品物は売れると思いますよ、今の状態でいけばですね。だから公社の話ですね一遍聞かせてください。

中面幸人委員

何かやっぱりリフォームするというか、方向性ですね。それなんかもやはり議会でもですよ、委員会でもですよ、そこ辺はどんな形になるのかなというのやっぱり、どうだろうな、せんとこまで踏み込めないんじゃないだろうか。その辺をやっぱりしていかないと一緒かなと思ったりするんだけどな、あとできてしもてからは。

仮屋園一徳委員長

今、牟田委員のほうから公社とぜひ早い機会に話をしたいと、きょうの意見を聞いてという意見がありますけど、ほかの皆さんのそれに対する意見をお願いします。

野畑直委員

先ほどの委員会の中でですね、2月中に自販機を撤去してもらいたい、返事をくれとか3月中に退去してもらいたいという話がありますので、早急に公社との意見交換会をですね、していただきたいと思います。

山田勝委員

私はな公社と意見交換会をすることも大事だけど、それよりも所管課である商工観光課がですね特命の職員をつけてちゃんとやってるわけやっで。だからここを叩かないとですね変わらないですよ。

[発言する者あり]

ちゃんとさせないとね、計画をつくって出てきてからはな、賛成か反対かじゃだめやったつで、今やらないと。今、商工観光課もね道の駅も一緒に。

[「一緒がよか」と発言する者あり]

それが進んできてからはな、賛成か反対かやらよ。

仮屋園一徳委員長

今、山田委員からありましたように、まちづくり公社と商工観光課と一緒にになった意見交換会ということでよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

それについてはまたこちらのほうで連絡をとりながら皆さんに報告をして、設定して

いきたいと思います。

[「道の駅の責任者も、まちづくり公社の役員ばかり呼んでもろたていかんで」と呼ぶ者あり]

仮屋園一徳委員長

それではこの件につきましてはそういうことでよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

それでは異議なしと認めそのように決しました。

次に先月、長崎県五島市で調査を行いました椿を活用した地域振興の取り組みについて委員の皆さんの御意見を伺いたいと思います。

岩崎健二委員

苗を植えて実になるまでは数年かかるというような情報でしたので、阿久根市内に自生しているツバキがどの程度あるのかをまず私は知りたいと思っております。各委員、議会も含めてですね概算でもいいので幾らぐらいのツバキが現存しているのがあるのか、それによって絞る機会をいつごろ準備すればいいのかということも考えていかないといけないと思っておりますので、苗を植えることについては早急に苗等の納入先とかいうのを調べていければいいのかなとは思っております。

野畑直委員

今、苗の話がでましたけれどもインターネット等で調べると苗については6月末ごろから7、8月にかけてことし出た新芽を差し木をするのが一番手っ取り早いということになっておりましたので、先ほど岩崎委員のほうから自生するツバキの話も出ましたけれども、そういうところでその苗木について購入するのがいいのかそれとも時間をかけて差し木等からそういう苗についてはこちらのほうで段取りをしていくのかということについてみんなで話し合いをしなければいけないと思っておりますので、今後そういうことについても取り組んでもらいたいと思います。

中面幸人委員

今、二人の委員のほうから話のございましたけれども、その前にですねどこで誰がどうして植えるのかというのをしないと、そっから先にしないと自分たちが議員で、委員でっていったら別ですけども、それもあるんじゃないですか、まず。その辺だと思いますね。どんな形で。

野畑直委員

今、五島に行って調査してきたばかりです。私には数人の人に話をしました。そしてそういうことだったら協力するよという人を4、5人は私も話をしているところですけども、先ほどから言うように苗木の段取りができないとその話は鶏と卵のようなもので、とりあえず苗木を調達することが先決ではないかな。そしてまた産業厚生委員会の委員の中でそれぞれまた声かけをしていただいて阿久根市内全域に広がるようなことになっていくほうがいいと思いますので、中面委員の言われるとおりあちこち我々が声かけをしてそういうことも並行してやっていってもらったらいかなと思います。

牟田学委員

耕作放棄地の場所とかですね、そこあたりは農業委員会のほうが把握をしていると思うんですね。そこあたりを農業委員会とも話をしてですよ、こういうふうにしてるんだがと。というのが、うちの牟田の踏切の丘あたりがですね大分荒れてるんですよ。あそこあたりをやはり農業委員会も通してですね、そこあたりを調べたらどうかなというふうに思います。

仮屋園一徳委員長

皆さんの話を聞きますと、ぜひやったほうがいいというふうに聞こえますけど、その辺も含めて。

白石純一委員

新しい商品作物としてこうした取り組みをするというのはもちろん大賛成なんですけれども、ツバキの産地を見てみるとですね今回の五島、そして伊豆大島、鹿児島県だと桜島、たまたまなのか火山の島ですね。そういう火山灰でできた土地に向いているのか、あるいは島という海洋性気候が向いていたのか、もちろん阿久根でも自生のツバキはありますけれども、ツバキを今回生かすために今意見が出たようにまず自生ツバキからツバキをとると。あるいはもう一つは耕作放棄地に植えていくという二通りに方法があると思うんですけど、もちろん植えていくのには時間がかかる。そうした場合に直近の自生のツバキのものでどれだけ商品化できるのかということも考えながら、じゃあ耕作放棄地ではツバキの生産が一番阿久根にとっていいのか。ほかの作物と比較してツバキのほうがいいよということであればもちろん進めるべきだと思いますけれども、そのあたりの説得、市民に対してあるいは農家の方々に対して説得する材料が必要になってくるのかなとは思いますが。

仮屋園一徳委員長

今の意見に対して。

岩崎健二委員

耕作放棄地に何を植えたらいいのかという点からいろいろと調査をしてきたんですが、耕作放棄地は面積が小さい。あるいは車とかのアクセスが悪いとか高齢化が大きな問題で、私が考えるところでは今あまり手をかけるようなものを奨励してもなかなか難しいのではないかなと。できるだけ手のかからないようなものということでツバキはその辺ではあまり薬をあまり振らなくてもいいとか、柑橘類みたいな専門的な剪定の知識がなくてもいいんじゃないかなということもツバキだったら割といいんじゃないかなというふうに私は思っておりますね。野畑委員がおっしゃったとおりに私も数人の方に声をかけてみました。そういうのがあるんだったら自分の畑も荒れているので苗があるんだたらぜひやりたいという方もいらっしゃると思いますので、苗の確保が一番、野畑委員がおっしゃるように苗の確保をどうするのかというのを検討し、またそれが5、6年先に見になったときに油を搾るという工場をどうするのかという大きな問題がありますので、そこに向けて努力していければと、勉強を進めていければと思っております。

濱崎國治委員

五島を視察して一番感じたのは、自生しているのがこんなにあるのかということとそれから6万本だったですか、奨励して作付したというその数にも驚いたんですけど商品化するとすればかなりのツバキを植えないとなかなか厳しいのかなという気がしました。特に日当に換算したら3千円くらいという、

[「2千円」と呼ぶ者あり]

そういうのからすればですね、これは所得向上になるから産業振興になるからと奨励するにはですね、ちょっとその辺は疑問を感じるんです。ただこれを産業振興とか行き着くところには少々のあまり手間がかからないから仕事がないときのそれにはなるんだよということではないとなかなかだがというふうに感じました。ましてや、もし何万本もするとすればですね、よっぽど計画的にですねしていかないと先ほど話があったとおりにどれくらい阿久根市にそういうことを作付できるのか、作付できるとすれば苗はどうす

るのか。農林業振興センターで差し木して苗木をつくってもらおうというのも一つの方法じゃないかという気はしますけれども。とにかくその商品化して阿久根にもツバキはあるんだなとするにはですね、かなり植えないかなというのが今の気持ちです。それからすればあまり所得にもならないのにそこをどういうふうにですね理解していただくかがですね一つの課題じゃないかなと思います。

山田勝委員

ちょっと協議会にしてください。

仮屋園一徳委員長

休憩に入ります。

(休憩 11:33～11:39)

仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。

ツバキの調査に行きましたけど、今、委員の皆さんからの御意見を聞きまして先ほどもありましたように荒廃地の利用ということでツバキ油の研修に行ったんですが、先ほどから意見がありますようにツバキ油がいいのかほかのものがいいのか、そういうのも含めながら今後また農政課等とも協議を進めていくということによろしいですか。

[「はい」「異議なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めそのように決しました。

次にこのほか皆さんから何かありませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

なければ以上で産業厚生委員会を散会いたします。

(散会 11時40分)

産業厚生委員会委員長 仮屋園 一徳